

2015年2月7日 13時-16時

第4回周術期危機管理セミナー@大阪医科大学

—産科編— 報告書

① 開催形態

開催講座責任者:南敏明(大阪医科大学麻酔科学教室 中央手術部部長)

共同開催:第一東和会病院、北摂総合病院、みどりヶ丘病院

開催協力:医療技能シミュレーション室、医療プロフェッショナル支援室

②インストラクター

コースコーディネーター

駒澤伸泰 大阪医科大学麻酔科学教室 MSSC

インストラクター

藤田太輔 (大阪医科大学産婦人科学教室)

中山舞 (大阪医科大学附属病院中央手術部)

岡田大輔 (みどりヶ丘病院麻酔科)

西原功 (北摂総合病院麻酔科)

田中源重 (第一東和会病院麻酔科)

③参加 44名

④内容

大阪医科大学附属病院で麻酔科医、産科医、手術部看護師が参加した産科周術期医療チームとしてのトレーニングセミナーを実施しましたのでその概要を紹介いたします。これは2013年12月7日の第一回周術期危機管理セミナー(気道)、2014年5月31日の第二回(循環)、2014年11月15日第三回(中心静脈)に引き続く4回目となります。今回は産科周術期の医療安全向上を目指して産科医師にも参加いただきました。

セミナーは2015年2月7日に大阪医科大学附属病院中央手術室にて開催しました。院内は産科医師4名、南教授を含む麻酔科医3名、手術室看護師20名が参加しました。北摂総合病院、第一東和会病院、みどりヶ丘病院の看護師15名と田中源重院長代行、西原功手術センター長も参加されました。コーディネーターは駒澤副室長が勤めました。

内容は、下記に示す通り産科、麻酔科、手術室看護師間での産科周術期管理に関する疑問点、改善点の抽出を事前アンケートを用いて行いました。その後、産科の藤田太輔先生、麻酔科からは駒澤、手術室看護師からは中山舞さんが登壇し質問に回答する形式でプレゼンを行いました。その後、8-10名ずつのスマールグループに分かれ、

今後の産科医療安全向上に関するディスカッションを行いました。最後にシナリオを用いて産科的危機的出血等についての症例提示を行いそれぞれの対応について討議を行いました。

コース終了後にもアンケートを行い「個人が注意すべきこと」と「システムとして改善すべきこと」を提示してもらい、共通の改善課題を抽出しました。

今回の参加者数は全体で 44 名と過去最高になりました。さらに討議も白熱しどの職種も産科周術期管理改善に強い意志を持っていることが確認できました。情報共有の明確化、チーム医療の重要性を再確認できたセミナーでした。

今後とも、外科、麻酔科、手術室看護師全員で参加・討議し、周術期医療安全を向上させるこのセミナーを継続開催していきたいと思えます。

事前アンケートの内容

①看護師から産科医へ

縦切開と横切開の基準

臍帯血で何をみているか

術後どんな症状を患者は訴えるか？

病棟から接続されてくる薬剤がわからない

情報提供が少ない

超緊急のときもこれだけは？というものを教えてほしい

助産師さんとかは何を見ているのか？

腰枕入れる場合と入れない場合の違いは？

アトニン追加の判断基準

臍帯血データは何でみているの？

前置胎盤等の緊急時は情報を詳しく教えてほしい

緊急カイザーの対応をちゃんとしてほしい

VBAC の適応とリスク

緊急連絡を定期的に状況報告してほしい

産科医は何を最も緊急性が高いと考えるのか？

この地域の中の産科医療システムでの大阪医科の立ち位置は

緊急度を正確に知らせてほしい 細目に連絡を

血ガスは産科 **Dr** がするはずでは？

緊急度の認識の差

②看護師から麻酔科医へ

硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔の選択

麻薬を加えることの意義

嘔気頭痛の訴えがあった場合、NSはどうするか
胎児にどれくらい薬剤は移行しますか
情報提供が少ない
娩出後の鎮静のリスク
緊急時に看護師に求めることは何か？

③麻酔科医から産科医へ

出血に対する注意のない若年医師が多すぎる
出血時に情報共有をしない、上級医を呼ばない
自分たちの手技で輸血かどうかが決まることを理解してほしい
超緊急時に情報が全然もらえない
連絡医師により緊急度が違う
急いでいるなら入室時に患者と一緒に来てほしい
硬膜外麻酔は本当に必要ですか？

④麻酔科医から看護師へ

出血時に応援を呼ぶことはためらわないでほしい
出血の報告を細目にしてほしい
どれくらいで準備できるかを明確にしてほしい

⑤産科医師から麻酔科医師へ

麻酔に時間がかかりすぎる先生がいる。
手洗いに行く時期を声掛けしてほしいときがある。
超緊急時の帝王切開時の取り決めを話し合いたい。
脊髄麻酔後の低血圧は胎児仮死を招く可能性があるのでできるだけ予防してほしい。
患者さんが嘔気で苦しんでいるときは、腸が腹腔外に出てきて、手術手技が困難になるところがあるので迅速に対応してほしいときがある。

⑥産科から看護師さんへ

出血の報告を細目にしてほしい
脊髄麻酔後の仰臥位低血圧症候群のことを意識してほしい。

受講後アンケートの内容

質問1：今後の産科周術期管理で自分が気をつけよう、改善しようと思うことは何ですか？

産科医師

明確に情報を手術室看護師と麻酔科責任者に伝える

子宮収縮の状態、出血状況、や止血方法を麻酔科や看護師と情報共有する
血液ガスは産科で出来るだけ測定するようにする
妊婦の状況が変化すればすぐに連絡相談する

麻酔科医師

出来る限り妊婦の精神状態に配慮する
母児面会の時間を出来るだけ確保する
脊髄くも膜下麻酔完了時に術者に手洗いを指示する
出血量報告に頼らずショックインデックスで出血量、バイタルサインを管理する
術野を出来るだけ観察しコミュニケーションしながらアトニンを投与する
児娩出後も胎盤摘出、止血等に注意を続ける

手術室看護師

脊髄くも膜下麻酔後はすぐにテープを貼って仰臥位にする
外回りときは出来るだけ頻回に出血量を報告する
母児面会を助産師とともにコーディネートしていく
出血量をショックインデックスで把握するように心がける
児娩出後も気を抜かない
どんな症例でも弛緩出血の可能性があることを念頭に入れておく
緊急帝王切開時の迅速な部屋準備と人員確保

質問2：今後の産科周術期管理で病院のシステムとして改善しようと思うことは何ですか？

産科医師

緊急手術時の状況を細目に連絡する
情報錯綜を避けるため産科責任者から手術室看護師責任者、麻酔科責任者への明確な連絡
緊急度の認識を統一するための院内基準の明確化
手術室内に血液ガス分析装置を留置しマンパワーを確保する
術野状況を周囲にできるだけ明確に伝える

麻酔科医師

緊急手術時のフローチャートと取決め
緊急度の認識を統一するための院内基準の明確化
脊髄くも膜下麻酔完了時に術者に手洗いを麻酔科側から伝える
緊急帝王切開時の硬膜外麻酔施行の有無の基準作成

手術室看護師

緊急時の物品用意をより迅速にできる体制作り
輸血部との大量出血時の連絡系統の円滑化

緊急手術時のフローチャートと取決め
 緊急度の認識を統一するための院内基準の明確化
 手術室内への血液ガス測定器導入
 情報共有は患者の社会面・精神面も考慮し助産師にも入ってもらう

開催案内と開催風景

第4回周術期危機管理対応セミナー 産科編

日時：2015年2月7日(土) 13:00~16:00
 場所：第12会議室→大阪医科大学 中央手術室
 (大阪府高槻市大学町2番7号)
 対象：麻酔科指導医・産科医師・研修医・手術室看護師
 定員：麻酔科5名、研修医5名、看護師20名
集合は、外来棟6階 第12会議室に集合してください
 (12:30より製品説明会があります)

手術中の急変対応を多職種で
 しっかりと学ぶコース

院内受講希望の方は、
 麻酔科勤務まで
 kome21century@yahoo.co.jp

<開催目的>
 今回は、周術期の産科手術管理のポイントについて学びたいと思います。

帝王切開
 子宮外妊娠
 羊水塞栓症
 常位胎盤
 早期剥離
 産科的危機的出血

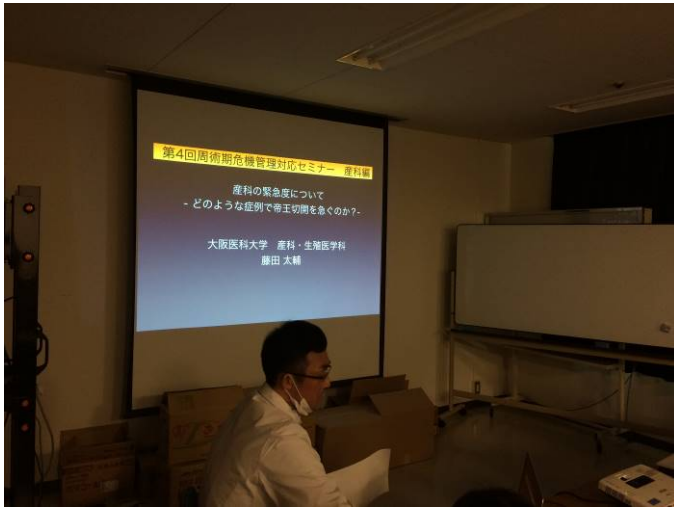
<プログラム概要(予定)>
 12:30~ 受付開始
 13:00~ 術中急変対応と様々なガイドライン
 14:00~ 急変対応のシナリオディスカッション(小グループ)
 15:10~ 手術室内での急変対応シミュレーション
 16:00~ コース総括・修了証授与

コーディネーター：藤原俊介 (大阪医科大学麻酔科学教室)
 インストラクター：藤田大輔 (大阪医科大学産婦人科学教室)
 藤原俊介 (大阪医科大学麻酔科学教室)
 駒澤伸泰 (大阪医科大学麻酔科学教室)
 岡田大輔 (みどりヶ丘病院麻酔科)
 西原功 (北摂総合病院麻酔科)
 田中源重 (第一東和会病院麻酔科)
 開催協力部門：医療技能シミュレーション室、医療プロフェッショナル支援室
 開催課産責任者：南敏明 (大阪医科大学麻酔科学教室)
 合同開催：北摂総合病院、第一東和会病院、みどりヶ丘病院

田中源重第一東和会病院院長代理による挨拶



産科の藤田太輔医師による産科の緊急度の講義



参加者は教育病院群の看護師を併せて最多の 44 名



麻酔科医、産科医、手術室看護師合同のスマールグループディスカッション



シナリオディスカッションのテーマ

ALS-OP産科編

循環シナリオ1	産科的危機的出血による心停止
循環シナリオ2	分娩後持続出血の搬送
循環シナリオ3	常位胎盤早期剥離の全身麻酔

チームで育む産科周術期医療安全



西原功 北摂総合病院手術室部長による総括



全体集合写真

